

# 影響力は最大だが信頼度が低い中国、影響力はないが信頼できる日本 — ASEAN 有識者意識調査 2024 —

石川 幸一

シンガポールの ISEAS - ユスフ イシャク研究所は 2019 年から ASEAN10 か国の有識者の意識調査を毎年実施している。2024 年の調査は 2024 年 1 月 3 日から 2 月 23 日に 1994 人（研究者、ビジネス・金融関係、市民社会・NGO・メディア、政府関係者、ASEAN 地域機関・国際機関関係者）を対象にオンラインで実施された。この調査結果は、ASEAN の見解を代表するものではないが、ASEAN 加盟国の政治経済に関連する政策に影響力を有する立場にある有識者の見解を示している。51 の質問は幅広い分野をカバーしているので、国際関係や日本と関係の在る質問を中心に結果を紹介する（注）。

## 最も影響力のある国は中国

東南アジアで最も経済的影響力のある国は 6 年続けて中国が最も多く 59.5% だった。第 2 位は ASEAN で 16.8%、米国は 3 位で 14.3% となっており、中国は東南アジアでは圧倒的な経済的影響力を持っていると認識されている。中国の経済的影響力については、懸念が 67.4% で歓迎の 32.6% を大幅に上回っている。

最も政治的・戦略的影響力がある国は中国で 43.9% であり、第 2 位は米国 25.8%、第 3 位は ASEAN で 20.0% だった。経済的影響力に比べると中国という回答が減り、米国が増えている。中国の政治的・戦略的影響力は、懸念が 73.5% と歓迎の 26.5% の 3 倍近い。中国の影響力を歓迎という回答が多い国は、インドネシア（41.9%）、マレーシア（43.8%）、ブルネイ（41.9%）である。懸念という回答が多いのは、ベトナム（95.7%）、ミャンマー（95.1%）、フィリピン（81.0%）である。ベトナムとマレーシアは南シナ海の中国との領域紛争を抱えており、ミャンマーは軍事政権への中国の支援が理由となっている。

信頼度（グローバルな平和、安全、繁栄、ガバナンスに貢献するために正しいことをする国として信頼

するか）については、中国を信頼する（「非常に信頼する」と「信頼する」の合計）が 24.8%、信頼しない（「全く信頼しない」と「信頼しない」の合計）が 50.1% だった。本調査が 2019 年に始まって以来、信頼しないほうが多いという評価は変わっていない。信頼しない最大の理由は、「中国は自国の国益と主権に脅威を与えるために経済力と軍事力を使うことができる」が 41.6% で最大である。

## イスラム教徒の多い国で米国の信頼度が低下

米国の信頼度は 42.4% で日本について第 2 位であるが、23 年の 54.2% から低下した。米国を信頼しないという回答が多いのは、インドネシア（62.2%）、ブルネイ（61.1%）、マレーシア（56.9%）である。これら 3 国はイスラム教徒が多い国であり、ガザに侵攻したイスラエルを米国が支持・支援していることへの反発と批判が理由となっている。親中国家といわれるカンボジアでは、米国の信頼度が 56.6% と不信度の 29.1% を超えているのは興味深い。トランプ政権時に米国の信頼度は大幅に低下し、バイデン政権になり回復したが、トランプが再選されると再度の低下が懸念されている。

バイデン政権下の米国の東南アジアへの関与は増大（かなり増大と増大の合計）が 25.2%、減少（かなり減少と減少の合計）が 38.2% だった。2023 年は増大が 39.4%、減少が 25.7% だったので、逆転したことになる。減少という国が多かったのは、ブルネイ（57.2%）、マレーシア（48.9%）、カンボジア（44.0%）である。原因の一つは、3 年連続で ASEAN との首脳会議に出席していたバイデン大統領が欠席したことが考えられる。

米国を戦略的パートナーとして信頼するかについては、信頼（ある程度信頼と信頼を合計）が 34.9%、信頼しないが 40.1% となり、前年の信頼 40.1%、信頼しない 32.0% から逆転した。信頼するが 5 割を

超えているのはフィリピン(61.4%)のみである。信頼しないが多いのは、インドネシア(60.7%)、ブルネイ(58.5%)、マレーシア(52.5%)というイスラム教徒の多い3国だった。バイデン政権が2022年に立ち上げたインド太平洋経済枠組み(IPEF)についての見方は、ポジティブが40.4%、ネガティブが14.9%、判らないが44.8%となっている。ポジティブの理由は、「ASEANのイニシアティブと補完的」(30.0%)、「米国の経済的関与を示す」(27.3%)であり、ネガティブの理由は「市場アクセスがなく調整コストなどを課す」(45.8%)、「米中関係が悪化」(28.4%)だった。判らないという回答が最も多いが、理由は「興味がない」(32.6%)である。

### 信頼度が最も高い日本

日本は経済的影響力では3.7%、政治的・戦略的影響力でも3.7%で非常に小さい。一方、日本の信頼度は58.9%で最も高く、「経済的影響力は最大だが信頼度は低い」中国と対照的である。信頼度が高い国は、フィリピン(82.3%)で群を抜いて高く、ベトナム(72.0%)、タイ(65.1%)、カンボジア(61.9%)などとなっている。日本を信頼する理由は、「国際法を遵守・擁護する責任あるステークホルダー」が36.5%、「グローバルリーダーシップを発揮する経済的な力と意思がある」が27.7%、「日本を尊敬し文明と文化を称賛する」が21.1%である。日本は「居住し就労したい国」で、ASEAN加盟国(22.4%)に次いで第2位(17.1%)である。ちなみに第3位は米国(15.9%)、第4位は豪州(12.0%)である。中国は4.8%となっている。「休暇に訪問したい国」では、日本は30.4%で第1位である。第2位はASEAN(16.2%)、第3位は韓国(10.3%)である。日本という回答が多いのは、タイが52.7%と過半を占め、フィリピンが48.8%、インドネシアが30.6%などで日本へのインバウンド観光ブームは続くだろう。

### ASEAN への評価は高いが懸念も

ASEANは経済的影響力が16.8%と第2位、政治的・戦略的影響力は20.4%で第3位だった。ASEANは、「グローバルな自由貿易の推進者として最も信頼する国」として29.7%で前年に続き第1位となっている。第2位は米国で22.1%、第3位は中国(18.5%)である。日本は9.0%で第5位である。

「ルールに基づく秩序を維持し国際法を遵守するために最も信頼できる国」としてもASEANは26.9%で米国(27.9%)と僅差で第2位となっている。このようにASEANに対する評価は高くなっているが、ASEANに対する懸念も大きい。最も多く指摘されたのは、「ASEANはスローで流動的な政治的経済的動きに対応できず新たな国際秩序で重要性を失っている」で77%となっている。続いて「ASEANは大国間競争の舞台となり加盟国は大国の代理人になっている」が76.4%、「ASEANはコロナ禍前の経済成長に戻っていない」が59.9%となっている。なお、東南アジアが直面する課題については、「失業と景気後退」が57.7%で最も多く、「気候変動と異常気象」が53.4%、「大国間の経済的緊張の激化」が47.0%となっている。

米中対立へのASEANの対応については、「2大国からの圧力をかわすために強靱性と一体性を高める」が46.8%、「米中どちらにも与しない対応を続ける」が29.1%となっている。選択を迫られた場合どちらを選択するかについては、中国が50.5%で米国の49.5%を上回った。前年は米国が61.1%を占め中国は38.9%だった。中国を選択するという回答が多かったのは、マレーシア(75.1%)、インドネシア(73.2%)、ラオス(70.6%)、ブルネイ(70.1%)だった。ただし、親中国のカンボジアは米国を選択するという回答が55%と中国より多かった。

台湾海峡で紛争が起きた場合のASEANの対応については、「武力行使に反対し外交手段を利用」が45.1%、「中立の維持」が36.5%、「侵略者への経済制裁」が9.8%となっている。「台湾への軍事援助」は5.7%、「中国支持を表明」は3.0%だった。台湾への軍事援助はフィリピンが14.9%と多く、中国への支持表明はラオスが8.1%で最も多かった。カンボジアで「台湾への軍事援助」が10.6%とASEAN10か国で2番目に多く、「中国への支持表明」は1.1%とタイ、フィリピンに次ぐ低さとなっていることは政権と国民の意識の乖離として注目すべきである。

(注) Seah, Sharon et al. The State of Southeast Asia 2024 Survey Report. ASEAN Studies Centre, ISEAS-Yusuf Ishak Institute. April 2, 2024.

(いしかわ こういち・アジア研究所特別研究員)